

第13期 第14回 鳥取市校区審議会 議事録

- 1 日 時 平成30年3月20日（火）14時 ～ 18時5分
- 2 会 場 鳥取市教育センター 2階 第1研修室
- 3 出席者 **【委員】**
本名俊正委員（会長）、野口淑文委員（副会長）、長谷川誠一委員、松ノ谷博委員、大村匡由委員、吉澤春樹委員、川口有美子委員、山田康子委員、牛尾柳一郎委員、田中弘之委員、森本早由里委員

【教育委員会（事務局：校区審議室）】
山名常裕課長補佐（教育総務課）、石上直彦主査、
藪下昇学校施設係長（教育総務課）、大坪宗臣主任
- 4 会議次第
 - 1 開 会
 - 2 会長あいさつ
 - 3 議事録署名委員の選任
 - 4 報告
(1) 第13回校区審議会審議概要について
(2) 2月定例議会での質問と答弁について
(3) 鹿野地域小中一貫校の設置について
 - 5 議 事
(1) 江山中校区の学校のあり方について
 - 6 その他
 - 7 閉 会

5 議事の概要

事務局

ただいまより、第14回鳥取市校区審議会を開会させていただきます。私は、次長の木村の代理で進行を進めさせていただきます教育総務課の山名と申します。よろしくお願いいたします。

前回の第13回校区審議会では、江山校区の学校のあり方について、2つの答申案をもとに、ご審議いただきました。今回も、議題を一つに絞り、江山校区の学校のあり方についての答申案の内容をご審議いただきたいと思います。

なお、本日は渡辺委員より欠席のご連絡をいただいております。

前回の審議会で校舎等に関する施設的な部分でのご質問を頂戴しました。今回は、それに関連する資料も付けさせていただきますが、教育総務課学校施設係長の藪下も出席させていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、会長よりご挨拶をいただき、以降の会の進行をお願いします。

会長

皆さんこんにちは。先日まで暖かく、梅の花やコブシの花も咲いて、桜の花がいつもより早く咲くのではないかと感じておりましたが、昨日からまた寒くなり少し春が遠のいたかなと感じております。

これが、まさに三寒四温というのでしょうか。しかし、今月末には、桜が咲きそうという予想ですので、間違いなく春はやってくると思います。

この審議会も、今年度はかなりの回数を開催させていただいており、皆様におかれましても、お忙しい中、本当にありがとうございます。今回は江山について検討しますが、千代川以西の課題についても結論を出していかないといけない時期にきていると思います。また、その他、中間まとめでさらに検討を進めたいというエリアがいくつもございましたので、これから先、各地域の方々とも相談しながら子どもたちの健やかな成長のためにどのような学校が望ましいのか、どのような手順で進めていったらいいのかといったことを皆さんと進めていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

それでは、日程3の議事録署名委員を選出したいと思います。名簿順によりますと、渡辺委員、大村委員ですが、本日は渡辺委員がご欠席ですので、大村委員と吉澤委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いします。次回、印鑑をお持ち下さい。

本日は、報告事項が3点ございますので、まとめて報告していただいて、その後質疑応答の時間を設けたいと思います。それでは、事務局より資料の説明をお願いします。

事務局

[資料説明]

会長

3点、報告していただきました。本日の報告事項の中には入っていないのですが、先ほど2枚ものの資料を配っていただきましたが、これは、一昨日の3月18日に神戸小学校のPTAの方々が勉強会として、美和小と統合する、あるいは小中一貫校となる、ということを含めて話し合いの場を持たれたそうですが、これはその時に出た意見としてまとめられたものです。この資料をPTA会長さんが事務局に届けられたということですので、少しご説明をお願いします。

事務局

[資料説明]

会長

今の報告を含めると、4点の報告事項となりますが、これについて皆さんよりご質問はありますか。

委員

神戸小学校さんが3月18日に会を開いてこのような意見を出されたということですが、私の方で、神戸小と美和小のPTA会長さんに、以前に地域から小中一貫校とする要望書を出していただいたのだが、PTAとしてはより議論を広く深く行ったかということを知りましたら、PTAとしても少し自分たちの目指す小中一貫校とはどういうものなのかということを見つめていく会を開くということでした。この会は夜まで行っておられたそうですが、その夜にPTA会長さんから連絡をいただきまして、その内容を説明したいということでお話を伺いました。そこで、PTAが考える方向性はどうかと聞い

たところ、小中一貫校を希望すると言っておられました。また、地域の方と幅広く意見交換をしたわけではないのですが、PTAの中では、十分に議論ができたと言っておられました。

会長

ありがとうございました。他にございませんか。

委員

市議会の吉野議員の質問で、平成35年度に759名になるという教室不足の対応については、3つあるということでしょうか。校舎の増改築、仮設校舎の設置、校区再編の3つで対応を考えているということでしょうか。

事務局

〇〇委員さんが言われたとおりであると思います。ただ、校区再編については、校区審議会の答申をいただいて教育委員会として考えていくというのはもちろんそうではありますが、岩倉と宮ノ下の校区再編を行った時のことを紹介させていただきたいと思います。校区再編を行う際に、今通っている子どもたちをすぐに別の学校に通わせるということはどうだろうということで、新しく入ってくる子どもは新たな校区に通わせますが、今まで通っていた子どもは兄弟を含めて選択できるような配慮をした方がいいのではないかという意見があったように聞いております。そうした場合に、城北小学校の推計児童数の759名が短期間に減るかということ、それは難しいということで、やはり、校区再編も必要ですが、校舎の増改築や仮設校舎の設置も必要であるという答弁内容になっています。岩倉と宮ノ下の校区再編の際には、全員が新たな校区に通うようになるまでに12年かかったと伺っております。

委員

教室に余裕がないという状況の中、千代川以西エリアのことをみんなで考えていこうという下地がまだまだできていないので、児童数増加に対応する方策として、校区再編というのはなかなか難しいかもしれないというのが校長としての思いでして、そのあたりを確認させていただいたところです。

事務局

少し補足をさせてください。教室が不足しているという喫緊の対応として、校舎の増改築や仮設校舎の整備などがあるということで、校区再編については住民の意見も伺いながら適切な校区となるように努めていきたいということとして、校舎の増改築や仮設校舎の整備と、校区再編は別に回答しているような形です。前段に、千代川以西の問題はどうかという質問があったので、それについて回答しているものを繰り返し答弁しているということです。逆に言いますと、校区再編を待って増改築などを考えるのではなく、間近に教室不足という問題があるのであれば、それはそれで対応を考えていくという意図で答弁しているものです。したがって、全部がセットになっているというものではありません。

委員

別ということですね。わかりました。

会長

校区審議会でも約1年前に、城北小学校、それから八千代橋を実際に渡って千代川以西エリアを視察しました。他の案件もあり、千代川以西の審議が遅れていることもあります。4月以降校区再編を考えていかないとこれから先、ずっと同じようなことが続きます。議会の質問の中にもありましたが約20年前には千代川以西に新しい学校をつかってほしいという要望があったようですし、校区審議会でも我々の期より前からの長年の懸案事項ですので、やはりここである程度の方向を出していきたいと思っております。これについては、次回以降、あらためて審議をお願いしたいと思っております。よろしくお祈りします。

他にございませんでしょうか。

委員

市議会の質問の中に、千代川以西への新しい小学校の建設についてありましたが、以前に千代水地区に新しい小学校を建設するかどうかという話が出たときには児童数が足りないということで、それには至らなかったということがあったかと思うのですが、新しい学校を建設するときのある程度の基準というものがあるのでしょうか。それとも、全てトップダウンということで決まってしまうのでしょうか。と言いますのも、仮に地域で新しい学校を建ててほしいという要望があっても、何かの基準で当てはまらないのであれば、可能性がゼロという話にもなるかもしれないですし、そのあたりはいかがでしょうか。

江山中校区の話なのですが、私も先日、江山中校区のPTA会長とお話をさせていただいて、小中一貫校という話が校区審議会でも議題に挙がっているのですが、PTAの間ではどうですかと伺いましたら、ほぼ保護者の中でも議論になっていないというか、逆にどうなっているかということがわかっていない様子でした。小中一貫校という話が出ているのですが、保護者の中でそういう機運が高まって意見を出したという雰囲気になっていないとおっしゃられていました。次に、江山中のPTA会長になれる方が、自分としても個人の意見となつてはいけないので、保護者の方を対象に小中一貫校であるとか、将来の学校のことはアンケート調査を取りたいと言っておられました。私が話をした感覚では中学校の保護者の間では小中一貫校についてはほぼ議論がなされていない、まだ内容をよくわかっておられない状況かなと感じました。

会長

学校の行方についてあまり地域で話し合いが進んでいないというそういう感じでしょうか。

委員

中学校についてはそのように感じたところです。ただ、小学校については、神戸小学校はもともと美和小学校との統合の話もあったので、以前から話はされていたかと思います。

中学校では、中間まとめが出たあたりから、中学校をどうするかという問題が急展開ってきて、保

護者としてはどうなっているのだろうという問い合わせが PTA 会長のところには届いているようです。

事務局

最初のご質問についてですが、新しい学校をつくるときの基準ということですが、特にこのような基準は設けておりません。以前、このような基準があったかどうかは調べてみないとわからないところがございます。

事務局

少し、付け加えをさせていただきます。新しい学校の設置基準ですが、それぞれ小学校と中学校の児童生徒数に合わせた設置基準を文科省が定めたものがございます。また、鳥取市では公共施設再配置基本計画を公表しておりまして、その中では、校区審議会での議論をもとに配置を検討するという事になっております。

会長

校区審議会も重要な部分を担っているということですね。わかりました。

千代川以西エリアと江山中校区の両方の課題があるのですが、千代川以西エリアについては20年以上前から色々な要望があって、審議会も答申はしているのですが、実現していないということです。江山中校区については、実は平成25年の11期の校区審議会の中間まとめから、学校規模の問題で緊急度が高いとされている状況で、課題がずっと続いています。依然として解決していないという状況です。この二つの問題はいつまでもというわけにはいきません。どこかで地域の意見も反映しながら、結論を出していかないといけないと思います。そういう意味ではこの審議会で結論を出して、実施に向かえるようにしていきたいと思います。そうしないと各地域にも不安を与えることにもなりますし、審議会としても答申は出しても実施できないということにならないようにもう少し詰めていけたらと考えています。

そういたしましたら、議事に入りたいと思います。毎回、江山中校区のことがなかなか進まないのですが、今回は、義務教育学校又は小中一貫校のA案と、小学校のみの統合案のB案と2つの答申案を検討していただきました。ご意見を伺いましたところ、地域で十分な議論が行われていないのではないかとということで、先ほど〇〇委員さんからもお話がありましたが、小学校のみの統合を進めるといふB案が進めた方がいいのではないかと意見の方が強かったように思います。また、一方では、意見としては少なかったかもしれませんが、小中一貫という意見もございました。

今回は、意見が多かったB案をベースとして、「B-1案」と「B-2案」を作成しましたので、ご検討いただきたいと思います。「B-1案」は、前回と同じように小学校のみの統合で、中学校は引き続き検討するという事なのですが、私自身としては、引き続き検討するという事でのいいのかということに少し心配しています。中学校の課題はいつまでも残ることになります。

「B-2案」ですが、小学校の統合、中学校については残すのですが、小学校と中学校の校舎を一体にして一貫教育ができないかというものです。私たち校区審議会としても、中学校の小規模化の課題を解決するにはどうしたらいいのかということに地域に投げかけているので、我々自身が今のままでいいということでのいいのかということに心配しています。中学校を他の中学校と統合するという案も今まで検討してきたのですが、地域から学校がなくなるということに考えるとなかなか難しい部分が出てくると思います。学校を残せるのであれば残して、ただ将来的にどうしても難しい場合に、全市的

な再編をせざるを得ない時期が来るのではないかと考えて、「B-2 案」というものを提案させていただきました。

現在の美和小学校の校舎に、江山中学校の生徒が入った時にどのようになるのか、空き教室を含めて、そのあたりがわかるような平面図などを用意していただきましたので、ここの説明をお願いしたいと思います。また、鳥取市としての公共施設の維持管理、施設の改修、設置などにある程度の基準が示されていますので、そのあたりも併せてお願いします。前回、〇〇委員から江山中学校はいつ頃改修に入るのかという予定も含めて考えた方がいいのではないかとのお話もありましたので、そのあたりをもう一度確認させていただきたいと思います。それから、〇〇委員から千代南中の開校につながる佐治中学校と用瀬中学校の統合についての答申についてご質問がありましたので、これを資料につけさせていただいております。この当時の校区審議会では、〇〇委員も係っておられましたので、後ほど詳しくお伺いできればと考えております。もう一つは、境港市の校区審議会が昨年発表された答申も参考になるかと思ひましてそれを付けさせていただきました。

このように膨大な資料を事前にお読みいただいて大変申し訳なかったのですが、この参考資料の説明を事務局よりお願いしたいと思います。

事務局

[資料説明]

会長

私から質問させていただきたいのですが、26 ページに教室の配置図がありますが、これについて、もう少し詳しく空き教室の状況とですとか一体型とした場合にはここに入るのか、そのあたりはいかがでしょうか。

事務局

2 階部分から見ますと、特活教室、それから放課後児童クラブとありますが、こちらは教室が必要であれば優先して使用できるとのことです。3 階でございますが、特活教室が 2 部屋、一時とある部屋が 1 部屋、利用可能とのこと。したがって、合計 5 部屋が普通教室として利用可能であると伺っております。

会長

前回の校区審議会では、分離型では効果が上がらないですし、反対意見も多かったと思います。ただ、こういった形で一体型で運営できるのであれば、少しそういった懸念が減って効果が上げやすくなると思いますが、この 5 つの空き教室の他に、実際に中学校が入るとすると、増築というのはどのくらい必要になりますか。例えば、特別教室として現在は、音楽・理科・家庭科・図工とありますが、この他に必要ということであれば増築せざるを得なくなると思いますが、それについては何教室くらい必要になりますでしょうか。

事務局

湖南学園を例に挙げますと、特別教室は小中学生が併用利用している状況であります。美和小学校の特別教室については、多少何かしらの改修が発生するかと思いますが、小中学生併用という形も取れるのではないかと、現段階として考えています。

会長

増築までは必要ないのではないかといいことですね。

中学校クラス数の増減を見ると、1クラスずつ合計3クラスになるという場合と、年によっては1学年2クラスになる場合もあります。5教室の空き教室で十分間に合いますか。

事務局

本日資料は準備しておりませんが、参考資料の13ページから15ページをご覧くださいと思います。江山中、神戸小、美和小の児童生徒数推計ですが、仮に美和小学校に神戸小学校の児童、江山中学校の生徒が入るとした場合に、足し合わせてカウントしてみますと、平成29年度から34年度までは、小学校1年生から中学校3年生までの全校の総クラス数ということでいきますと、11クラスとなります。平成35年度は9クラスになるという見込みです。

会長

11クラス入るといいことですね。

事務局

この13ページから15ページにある推計をもとにしますと、現在の美和小学校は6クラス使用しており、5クラス空きがあることを考えると、11クラス入るといいことになります。

会長

事務局の説明によりますと、増築は必要ないだろうといことです。ただ、場合によっては改修工事ですとか、空き教室を全部詰めるということが運営上いいのかどうかということがあると思うので、一部増築もにらみますと、スタート時から一体型で始めることができるという理解でよろしいでしょうか。なぜ、私がこのようなことを申しているかと言いますと、やはり地域の意見をなかなか集約できないということもあるのですが、私たちとしては、中学校も課題があるということを描しているわけです。それに対して、答えが来ているのですが、私たちが小学校だけ統合しましょう、中学校は当面置いておきましょうというお返しでいいのかということに気にかけています。中学校は問題があると指摘しながら、小学校は統合し、中学校はお待ちくださいということにいいのかということに気にかけています。やはり、中学校に課題があると指摘した以上は、我々も、こちらとしての考え方を出すことが地域に対しての返事になるのではないかと思います。前は、分離型という考え方しかなかったのですが、分離型ですと成果が上がらないということもありましたので、今、一体型でスタートできるのであれば、1年後というのは難しいかもしれませんが、2年後くらいをにらんだら可能ではないかという気持ちを持っております。もう一つは、神戸小は喫緊の課題でできるだけ早くという思いがあります。地域もそうですが、我々も全く同じ意見です。入学者が1人という状況が続くというのは、このような状況は解消すべきと考えます。ただ、これもどんなに急いでも1年はかかると思います。そのあたりを、場合によっては、神戸小から美和小に、早いうちに合同での授業で何回か出てきてもらうようなこと、例えば週5日間の授業のうち2日間は神戸小の児童が美和小学校に通ってもらうなどして、「B-2案」で一体型を2年後に進めるという考え方もあるかと思います。

いずれにしても、一番心配なのは、地域の意見がなかなかまとまらないということと、もう一つは、それを待っていていいのだろうかということ。期待すれば、地域から何らかの結論が出るかもしれませんが、いつまでも待てないということになると、校区審議会としてこうした方が地域のため、子どものためにもいいのではないかと案を出した方がいいのではないかと、考えているところです。生徒数の推移からみると、これから10年～15年の維持というのは可能ではないかと思ひます。地域から学校がなくなるような答申は避けた方がいいのではないかと思ひます。そここのところは、何か工夫しながら、地域に学校を残すという方向を同時に考えていかなければいけないのではないかと思ひます。学校を残すということになれば、小学校と中学校を一体型として残すということも10～15年くらいの間では可能であると思ひます。その先は、鳥取市全体の学校のあり方が大幅に変わってくる、

変えないといけない時期が来ると思います。過渡的ではありますが、「B-2 案」のような案もあらゆる材料を出しながら検討した方がいいのではないかと思います、出させていただきました。

委員

先ほどの説明を受けて、普通教室は足りるように見受けられたのですが、中学校も小学校も支援学級があって、もし小中学生が同じ校舎に入るとすると、支援学級は、1 年生から 9 年生まで同じクラスでいいということですか。

会長

それを考えると、やはり足りないのではないかと思います。

委員

職員室にしても、小中の職員が入ると考えると、今の美和小の職員室に何人ぐらい入れるのでしょうか。

事務局

はっきりと調べてはいないのですが、視察の際にご覧になられたときに、美和小学校の職員室は他の学校に比べてかなり広く作られています。中学校の職員が全員移ったとしても、入るのではないかと推測ですが、感じているところです。

会長

確かに普通の学校の職員室よりかなり広いと感じました。

江山中学校には武道館というのがあるのですが、これは体育で柔道か剣道を行うためのものだと思いますが、そういった部分も追加しないといけないこともあるかもしれません。やはり、ある程度の増築は必要ではないかと思います。ただ、中学生にとってどれがいいのか、地域にとってどういう選択がいいのかを含めて、ここで結論を出していきたいと考えています。やはり地域の意見がまとまっていないと、気になるところです。

委員

資料 30 ページに更新等検討時期が記載されていますが、この第 1 期に挙がっている学校の中でも改築の優先順位というものはあるのでしょうか。

事務局

現在、個別施設の長寿命化計画を策定中であります。その計画ができましたら、ある程度、全学校ごとの更新時期というものも示せると思いますが、現段階では施設の状態を見ながら、古いものから順次改修を行っているという状況であります。

それから、更新時の方向性にも記載してありますが、校区審議会において統廃合を検討していない学校については、長寿命化を図るということになります。美和小学校と江山中学校は、校区審議会でも検討されている状況ですので、方向性が出た段階で長寿命化対策に向かうべきものと考えています。

会長

そうすると、もし中学校を残すとなると、中学校に予算を注ぎ込むということになりますか。

事務局

もし、江山中学校を長期的に残すという判断が示されれば、当然、長寿命化の対象になってくると思います。

会長

ある程度のところで、江山中学校を美和小学校の位置に移すということになると、そちらに予算をつけて、江山中学校には手を入れないということになりますね。ですから、建物も寿命のことも考えると、それも一つの方法かなと思います。

また、小学校と中学校を別々に置いておけば、将来的に、もし統合ということであれば義務教育学校よりも中学校だけを外すということもしやすいのではないかと思います。そこで建物の寿命も考えると、2年後ぐらいに一体型として始めるということも一つの方法かなとも考えます。

いずれにしても、中学校をどうするかということ、我々としてもお返しすることを考えると、今までは、色々な学校にくっつけるということで資料も事務局につくっていただいたのですが、果たしてそれでいいのかということです。地域の振興ということも考えると、当面は一体型で学校を残しながら、次の十数年先を考えていかないといけなかなと思います。

〇〇委員からの質問にもありましたように、学校の改修については、早々に手を入れる予定になっているようですので、仮にそこに予算を注ぎこむと、長期的に今の少人数の学校をそのまま残すということになるとと思います。

委員

将来的なことを考えると、これまで寿命が50年として計画していたものが、80年に延びるということは、今まで以上にかなり長期的な視野に立たないといけなくなると思います。新しく増築なり新築して、10年後に潰してもいいということには今まで以上に難しく思います。今までは、学校の耐震化が終わっていなかったのも、保護者としても子どもの安全を考えて、まずは耐震化でそれが難しければ改築で子どもの安全を守ってほしいというのがあったので、それをお願いしていました。現在は、小学校も中学校も耐震化が終わって、なおかつ31年度にある程度施設ごとの計画を立てられるとなると、校区審議会としても、今まさにこの時期に長期的な学校の将来の配置を、人口動態を含めて検討できるいい時期ではないかと改めて思いました。

そうすると、地域の意見もあるのですが、喫緊の課題の解決とは別に、改築などが伴うのであれば、31年度の施設計画が出るのに合わせて、将来的なビジョンを出しておいたらもう少し話が進むだろうし、江山校区も含めてそこまで待ってくださいというのも言いやすいのではないかと思います。長期的な視野に立つことも大切ではないかと思います。

会長

ここで、少し休憩をしたいと思います。その後、委員の皆さんのご意見をお一人ずつ伺っていききたいと思いますので、よろしくお願いします。

[休憩]

会長

それでは、再開したいと思います。

少しまとめますが、「B-1案」の小学校のみの統合とした場合は、我々校区審議会として、中間まとめで指摘している中学校の部分の方向性がなかなか出せないということになります。今までどおりということであると、建物の関係も含めて中学校にも改修が入るとなかなか次の校区再編がすぐにはできなくなります。また、地域と異なる答申をすることになりますので、地域がその答申の内容をしっかりと理解できるような、子どもたちのための議論が地域でできるような内容の答申をしていきたいと思えます。

それから、小学校のみの統合を進めるにしても、神戸地区と美穂・大和地区の住民の小学校統合の考え方に差があるかもしれないと考えています。統合といっても、美穂・大和地区の方を対象にしたアンケートでは、当然吸収統合だろうということも賛成しておられるという可能性があります。これ

は、前回、渡辺委員がご指摘いただいた部分であります。2つを廃校にして新しい小学校をつくるのかどうかということについて、課題が残ると思います。

仮に、小学校のみの統合を進め、その後何年か後に、地域や校区審議会で継続審議をして、小中一貫ということになるというような方針が短期間のうちに変わることは避けたいと思っています。やはり、地域と子どもたちの将来を考えると、少なくともこれから10～15年、児童生徒数の動態を見ると、おそらく10年くらいは今の状態より増えるか、今の状態が続くかというようなところですので、その辺で中学校も含めたところの案を出していった方がいいと思っています。

「B-2案」で、小学校と中学校の校舎を一体型として、一貫教育を強化するとした場合は、少し踏み込んだ形になりますので、いくつか重点論点を挙げておく必要があるかと思っています。一つは、地域での議論が十分でないと感じられますので、地域や保護者の議論が活発になるように、教育委員会や学校がしっかりサポートすべきといった具体的な内容を答申に盛り込んでいく必要があるだろうと思います。もう一つは、より良い学校づくりが進めていくことができるような提案や、通学面・施設改修などの教育環境面の配慮も併せて答申の中に盛り込む必要があると思います。

そのようなことを考えながら、お一人ずつご意見を伺っていきたいと思います。

委員

先ほど〇〇委員が大きなビジョンを持って、向こう何十年かにわたった議論をして校区審議会が解決していくということをおっしゃいましたが、なかなか人口の移り変わりや、その時の社会情勢というのは20年後、30年後というのは読めませんので、今提示されている児童生徒数等の状況等を見て考えた場合、私は地域の方が提案された小中一貫でありたいということ尊重した学校づくりであってほしいと思っています。

「B-2案」というのは、同じ校舎に小学校と中学校があるという形になるわけですね。色々と考えていましたが、教師の行き来もスムーズにいくわけです。義務教育学校がいいかどうかは別として、この「B-2案」の一貫校というのがよろしいのではないかと思います。

前回の議論では、義務教育学校にすると、その先に合併するときは義務教育学校との合併しか考えられないような議論になっていたと思います。それを考えると、義務教育学校というのは難しいのではないかと感じておりましたが、これから10年先、20年先にどういう議論になるかはわかりませんが、今回義務教育学校になっても10年先、20年先くらいまでは人口的な観点からも大丈夫ではないかと思います。

それから、地域の思いを伺ったときに、議論が深まっていないのではないかとということをおっしゃったときに神戸のPTA会長さんはすぐに行動に移していただきましたし、一貫校を希望するということでしたし、美和小のPTA会長に話しかけてもPTAとしてはまともなまわっているということでした。こちらの答申が出たら、さらに踏み込んで議論していくのでその点については安心してほしいということにも伺っておりますので、一貫校で進めていってもいいのではないかとというのが私の意見です。

会長

一貫校を進めるにあたっては、校舎を一つにして、義務教育学校とするかどうかは別として一体型にした方がいいだろうということですね。

委員

江山地域の方々としては、小学校だけで話を進めていても、将来に中学校の問題も残ってくるので、これを機に小学校も中学校も考えていきたいと言っておられました。また、中学校の校舎の老朽化のことも考慮すれば、その考え方もよくわかります。小中一貫校とすればコスト的にも、地域で議論をする熱量にしても今がちょうどそれを実施する時期ではないかと思います。

委員

私としては、「B-1案」でと思っています。これまでの議論の中でも、小学校は小規模であっても地域にあった方がいいのではないかとすることがありました。しかし、中学校はある程度の規模があ

った方がいいという意見もあったと思います。仮に、神戸小と美和小が統合したら、私のイメージとしては将来的にも小学校は残るのではないかと考えています。ただ、中学校はもう少し全市的に考えてある程度の規模を確保した方がいいのではないかと考えています。将来的に、このくらいのかたまりでというのを出してからでも遅くはないのではないかと考えるので、「B-1案」として小学校を統合する、中学校は全市的に検討したいので待ってくださいという方向でもいいのではないかと考えております。

会長

そうすると、校区審議会として、中学校に課題がありますよと言いながら、こちらの話は待ってくださいということになるわけですね。地域は、校区審議会、教育委員会の方針に従うとは言っておられますが、地域がそれで納得するかということがあります。校区審議会が、問いかけをしておきながら、地域から見れば、校区審議会は中学校についての回答をしていないのではないのか、ということになるのではないかと心配しています。

ただ、全体的に人口が減ってきているので、例えば10年後、20年後にいずれ全市的に考える時期が来るのではないかと考えています。そういう時期まで、待っていてもいいのだろうかという気持ちもしています。どのように地域に返すのかということも心配しています。

委員

非常に悩んでおります。それが率直な思いですが、「B-1案」にするか「B-2案」にするかということとは、私は言いません。

事務局が、佐治・用瀬の資料、境港市の校区審議会の資料を出してくださり、ありがたいと思っています。佐治・用瀬の資料を見ていると、まず佐治の方から要望書が出ましたが、用瀬はそうではないですよということでしたので、事務局サイドが動いて用瀬の方に、今このような進捗状況ですがこのことについてどう思いますかと文書を送って、数か月後に用瀬はこう思っていますと回答がありました。当時は、責任ある地域での議論とか、十分な協議という文言はなかったかもしれませんが、佐治の想いだけを聞いて、どういう学校にしていくかということでは不十分なので、やはり用瀬の方にも意見を聞かないといけないなということで文書を送ったと思います。佐治の意見は自主的に出ましたが、用瀬の方は事務局サイドが労をとって返してくださいという動きがありました。したがって、それなりの全体集約をした意見が出てきたのでそれで行きましょうということで、ゴーサインが出たと思います。そこをもっと江山校区にも使えないのかなと思います。責任ある議論がされていませんよということで返すばかりではなく、このようなアンケートを取ってみてはどうですかとか、何か働きかけてそれなりのものが出てきて、やっぱりそういうことかと思えるようなことを企てられないかというのが、佐治・用瀬の資料を見て思った考えの一つです。

もう一つは、境港市の校区審議会の資料ですが、誠道小と他の小学校をくっつけて、数年後にまた中学校を含めた小中一貫のことも触れてありますが、段階的にというのは大変だなと思います。私自身の経歴で言いますと、鹿野小に勤務していた時に、勝谷・小鷲河・鹿野の3小学校を1小学校に統合する準備にかかわりましたが、大変でした。それまでには、教育委員会が動いたのですが、こんな学校にしていくということで、夜の会や色々なことで地域や保護者と一緒になって色々な準備をしたと思います。それから、湖南学園についても、私は今のような一体型の前の併設の一貫校にするときに携わっていたのですが、初めての小中一貫校ということで、頻りに地域も保護者も教員も議論をしていました。それを小学校の統合をし、その後に段階的に小中一貫校とするのは随分大変だろうと思います。

これらの資料を見て、さらなる思いがこのように二つ生まれました。そこを、どう「B-1案」、「B-2案」、その他の案も出てくるかもしれませんが、どう結論を出していくのかということが悩ましいところです。

会長

地域にこちらから働きかけをして、もう少し議論を進めて、例えばこういうアンケートを取って校区の方々のご意見をもう一度まとめていただだけませんかというような、アンケート結果が割合が低い

こともありますし、〇〇委員がおっしゃられた中学校 PTA で十分議論が進んでいないということもありましたが、もう少し多くの方々に考えていただいて、意見を全体として集約していただくという機会があってもいいのではないかと思います。

委員

その企画は具体的に何がいいのかということは、色々な知恵を皆で出し合わないといけないと思いますが、アンケートがいいのか、事務局サイドが出向いていくのか、「人を集めてください、大事な会です、切羽詰っていますよ」と言って多くの人に集まっていただいて、色々な意見をそこで集約してもらおうようにしないといけないと思います。今のまま、十分な話し合いをしてないということ言うばかりではいけないと思います。こちらが企てていかないといけないと思います。

会長

そのあたりを、今回「B-1 案」、「B-2 案」に少し付け加えています。やはり、教育委員会で働きかけをしていかないと地域の熱意がなかなか高まってこないということもあり、なかなか結論がだしにくいところです。それから、どういう結論になろうと、地域の方々の総意のようなものがまとまってくると、後々の運営についていいのではないかと思います。

委員

それをやることによって、2つのいいことが出てくると思います。1小1中というのは、やりやすさがありましたが、複数の小学校を統合しさらにその後小中一貫又は校区再編をするとき、大きな学校と小さな学校が一緒になったときの温度差をどう埋めていくのか、そのノウハウがこの江山中校区を通じて教育委員会サイドとしてもストックできるというのが一点目です。

もう一つは、これだけ学校教育が地域や保護者の上に成り立って、どんどんみんなで学校づくりをしていこうという社会的気運の中で、校長からすればみんなで考えていただける学校というのは、そのような熱のある学校というのはありがたいです。おらが学校という方が何人もおられるというのは、とてもありがたいことです。

そういう二つのメリットが、こういった企てをすれば後々残るのではないかと思います。

会長

このような取組の中で、地域の学校に対する熱意を育てていくということが、この校区審議会や教育委員会にとっても大事ではないかと思います。待っておられるわけですので、むしろこちらから働きかけていかないといけないと思います。

委員

以前の基準は、適正規模や適正配置でして、小学校は急がないといけない、中学校はもう少し大丈夫だというような議論になっていました。しかし、義務教育学校がこの4月からできるので、地域に小学校が残る、中学校が残る、という話にはなりません。地域に義務教育学校ができる、残るという議論になるわけです。小学校や中学校が残るといような喜びはなくなってしまいます。地域に、学校があるというような感覚になると思います。校長も義務教育学校校長会というものを組織して、義務教育学校の運営を担うわけです。将来的には小学校と中学校と義務教育学校と3つの校長会ができるはずですが、今は、湖南と福部と鹿野の3つしか義務教育学校がないので、その校長会をどうしますかと私にも聞かれましたが、市教委も条例を変えられて、色々な予算も3つに分かれているようですが、3校では校長会はできないだろうということで、義務教育学校の校長は小学校と中学校の校長会に2股をかけて出席するわけです。そのような形なので、中学校の校長会の会長とも話をしたのですが、中学校のお世話もお願いしにくいので役をなしにするかというような話も出ています。義務教育学校の運営というのも大変だろうと思いますが、義務教育学校単独での校長会の運営は難しいと思います。

そのような中で、校区審議会として小学校をどうするか中学校をどうするかという問題ではなくなってくるのではないかと思います。義務教育学校の校区審議会というものになるかもしれません。先ほど、校舎の長寿命化ということで80年に延ばそうという話がありましたが、なかなかそこまで先の議論をするのは難しいので、私は「B-2案」かと思います。

中学校単独では耐震化もしましたが、これからさらに長寿命化するのではなく、税金を使うのではなく、義務教育学校を前提として、小学校と中学校の校舎を寄せておいてそこにお金をかけて、中学校を残しながら小中連携教育をするということが良いのではないかと思います。「B-2案」というのは中学校が残ることですね。

会長

残ります。小学校と中学校を残しながら、校長一人ということもできます。

委員

そのようなことができるのですか。

事務局

それは、連携教育ではなく、小中一貫教育校として平成27年度に制度化されました。いわゆる義務教育学校と、もう一つが小中一貫型小学校、小中一貫型中学校という中学校を併設した小学校、小学校を併設した中学校という学校です。今の湖南学園が、小中一貫型小学校、小中一貫型中学校という形です。そして、平成30年度から義務教育学校に変わります。

委員

今の湖南学園のような形で残せるのであれば、それで20年くらい進めばいいのではないかと思います。

副会長

佐治と用瀬の統合の話がありましたが、どう考えても佐治は用瀬と一緒にしか方法がなかったと思うのですが、そのような統合でも苦労されておられるわけです。この時の佐治の立場が、神戸の立場に近いのではないかと思います。神戸小校区の方や江山中校区の方が河原と一緒にするというようなことを言えないのでしょから、校区審議会なり教育委員会が何らかの方針や提案をすべきだろうと思います。湖南などに比べると江山中校区の地域としての気持ちはそこまで強くはないと思うのですが、また地域としても持ちようがないところもあるのでしょから、中学校の校舎の古さも考えると、会長が言われたように美和小学校で一緒に成れるだけのスペースが保たれるとなると、中学校と美和小学校は800mほどですので、江山中学校も何らかの形で使っていけば、小学校の位置と一緒にして、連携校というような形でやっていくのがいいのではないかと思います。いずれ、他と一緒に成ることもあり得ると思いますので、そういう意味では一貫校という形で決めてしまわない方がいいのでしょし、そこまで地域も強い気持ちはないようなので、会長が気にしておられる地域の要望とこうしたらいいのではないかということの融合を考えると、そのあたりで収めるのがいいのではないかと思います。今のまま江山中学校を残すと成ると、江山中も美和小も両方とも改修の時期がきているわけですので、費用的な問題も出てきますので、美和小学校と一緒にする十分なスペースがあるのであれば、それがいいと思います。美和小と江山中の距離も運動にちょうどいいと思うので、校舎として使うのではなく中学校の用地も何らかの形で使うのが今のところいいのではないかと思います。私は、将来的にはどこかと一緒に成るべきだろうと思うので、そこまではこのような形にしてもいいのではないかと思います。

委員

参考資料の26ページですが、現在、特活を中心とした教室が、仮に中学校が入って成ても普通教室

として使えるのではないかというお話がありました。さらに、特別教室については、そんなに大きな改修をせず、中学生も使ってもらえるような状態にできるのではないかというお話がありました。美和小の平面図面と 23 ページの江山中の平面図面を比べて見ていたのですが、どうしても中学校に必要な教室というのもあると思います。例えば、教育相談室というのが 3 つほどあります。やはり、中学生は進路という重要な局面を迎えるわけですから、教育相談をするということも年間を通じてかなりあるでしょうし、特別教室に隣接している準備室も小学校にもありますが、中学校で授業するときに必要な教材や物品を入れ込むとなったときに、今の美和小の準備室の広さで大丈夫かということも気になっているところです。やはり、美和小に大規模とは言わなくても、手を入れたり、多少の増設をしないと十分な中学校仕様にならないのではないかと思います。今、中学生が受けている教育の質が、大規模な改修を避けることによって落ちてしまうのではないかと思ったところです。図書室にしても、中学生が読む図書が入ってきた時に、この広さで大丈夫だろうかとか、逆にこの広さで間に合わせることににより、図書を処分するようなことが出てくれば本末転倒になるのではないかと思います。

会長

確かに、机や椅子の高さなどが美術室など特別教室にしても違うわけですね。

委員

普通教室の個別の机は可動式なので調節は可能でしょうが、特別教室のようなテーブルのような据え置き机になるとそういった問題も起こるでしょうし、小中で使うとなると、考えていかなければいけないと思います。生徒会室というものも中学校にはありますし、中学校にしかないような物理的な環境を美和小でも再現されるかということだと思います。以上が施設の話です。

江山中の小規模化の課題ですが、参考資料の 13 ページを見ますと、平成 34 年度の 1 年生が 18 人ということで 20 人を切っています。この 18 人というのも、そのまま江山中学校に入学する保証はなく、例えば鳥取大学の附属中学や私立中学に入学してしまうかもしれません。現在でも、他の中学校に進学するというお話も伺いますし、そうするとかなり小規模化の現状も含めこの先のこともかなり深刻だだと思います。そう考えたときに、中学校が小学校と一緒にすることで、何が克服されるのか、何が改善されるのかというのが私の中ではよくわからないというか、有力な考えが出てきません。美和小学校と一緒にすることで、中学校教育としての私たちが考えている課題が克服できるのかという不安があります。

「B-2 案」としたときに、参考資料 8 ページの (3) の赤字部分ですが、「議論が、地域の中で十分に尽くされていないと感じられる。」と厳しめに書かせていただいている、「しかしながら」と第二段落に入るのですが、これを市民の方がお読みになられたときに、十分に地域で議論されていないのに、それでも校区審議会としては引っ張っていくのかということ、市民の方への説明責任ということ考えたときにそのような構成でいいのかと思うところです。もちろん私たちは、支援する側であるのですが、地域から出てきていないのに、校区審議会で小中一貫をしたらこんなにいいことがあるということ、校区審議会も行政も支援するし、地域の皆さんもこれからご検討くださいという流れでいいのだろうかという立ち止まり感のようなものを感じた次第です。

会長

先ほど〇〇委員よりもう一度地域に返して地域の熱意を育成するような仕組みをした方がいいのではないかということでした。そのとおりだと思います。ただ、少し、急いでいる部分もあり、このような形で書いたのですが、地域の熱意が上がってくるのを待っているだけでいいのかという疑問が一つあります。やはり、地域を育てるといいますか、地域の熱意を育成するような仕組みをこちらからも問いかけていかなければいけないのではないかということで、「B-2 案」の場合は、一貫にして、熱意を高めるというようにしています。

ただ、本来は、ここに至るまでに、地域でもう少し議論していただいて、まとまるような仕組みを、私または校区審議会から、もう少し全体の意見をまとめてくださいというような指摘と言いますか、もっと具体的な注文やあるいは提案をしながら、アンケートのやり方についても神戸の取り方と美和

地区の取り方と中身が異なっていたりしますので、全体として学校のあり方についてのアンケートをやってもらった方が本当はいいのではないかと思います。それが、これからの新しい学校または今のままということであっても、地域としては十分に理解した上であがってくる、それについて応えられるということになるかと思います。その部分が、少し前のめりになっているのですが、我々としても待っているだけでなく何かしないといけないのではないかと、教育委員会も適切な指導・助言を行うべきではないかと書いているのですが、また、我々も教育委員会の一つの組織ですので、そういう部分がこれまで足りなかったなど正直なところ思っています。

昨年末から地域に意見を求めているもなかなかいい案が返ってこない、そのままずるずるときているわけですが、〇〇委員からご指摘のありましたように、もう一度地域を育てるような仕組みを取り入れた方が、後々いいのではないかと思います。1年後に神戸小が美和小と一緒にするというのは少し難しいかもしれませんが、もう1年先の2年先をにらんでいけば、十分に住民の方のまとまった意見で動けるのではないかと思います。「B-2案」ではこのように書いてはいますが、これからの取組で少し考えていかないといけないかなと思います。

委員

私は「B-2案」がいいのではないかと思います。前回までの会議の中では、中学校の課題はとりあえず置いておいて、まずは小学校だけの統合だけを進めてはどうかと思っていましたが、今日の皆さんのご意見や地域の方の想いをどのように校区審議会として方向性を出してお返りするかということを考えてときに、「B-2案」でどうだろうと考えました。小学校と中学校の校舎が両方とも更新の時期に来ているということでしたが、そこも「B-2案」を考えるにあたって大きな要素となりました。

先ほどから、地域の議論をもう少しという議論もありますが、逆に言えば、もし自分が江山校区の地域住民だったときに、そこまで果たして一住民として学校のことを本気で考えるだろうかということをおもいました。何らかの形で、地域の学校をどうしようかという問いがあって、ほとんどの人が考えることなのかなというようにもおもいましたので、まずは校区審議会でも方向性を示して、その後2年かけて、住民の中で議論を深めていけばいいのではないかと思います。佐治・用瀬や境港市の資料もついていましたが、それぞれたくさん段階を踏んで議論した上で、色々まとまって来ているものがありますので、まずは神戸小と美和小が統合して、校舎の方は一体型で、今の美和小の校舎に中学生が入り、小中一貫ではなく、小学校と中学校として校舎を一にして学校生活を送るという形がいいのではないかと思います。

委員

中長期的にとおっしゃって、10年後、20年後にどうなるかということはおなかなか予測がつかない部分ではありますが、小学校の部分は急ぐ必要がありますが、対等合併とおっしゃって、どうしても児童数が少ない学校が大きい学校の行事などに引っ張られがちになる傾向があるというようなお話も聞きます。そのようなことを考えると、小学校だけの統合だけでなく中学校も一緒にするという形になれば、少しはニュアンスが違ってくると思います。私の考えですが、小学校というのは地域にとっては非常に重要なものだと思いますが、中学校についてはそこまで考えなくてもいいのではないかと思います。

施設の話も出ましたが、例えば小中が一緒になってやるといっても、水道の蛇口の位置にしても異なります。現在の校舎の改築だけでは難しいと思いますので、増築ということが重要になってくると思います。

江山中校区の現状を見ていますと、校舎の改築問題も含めて今後のことも考えていくときには、非常に広い校地ですし、十分に小学校と中学校と一緒にするという形が取れると思います。ですので、同じ場所に小学校と中学校があるという形にして進めていき、地域の中での気運というか、盛り上がりの中で、一貫校になるか10年後、20年後に他の学校とも一緒になるかも含めた形で、とりあえず学校自体は「B-1案」、「B-2案」の中間のようなことしか言えないのですが、そのような方向がいいのではないかと思います。

委員

課題はあると思うのですが、今考えているのは、「B-2 案」の方です。やはり、小学校だけではなく、中学校のことも考えていかないとはいけませんし、その方向性も示してあげるべきではないかと思えます。校舎については一体型で、小中一貫教育ということで考えていくべきではないかと思えます。

校舎の設備や教室などは、小学校と中学校ではおそらく規格が変わるのではないかと思えます。そのあたりの具体的な対応が今後の課題ではないかと思えます。方向性は示した方がいいと思えます。

会長

皆さんのご意見を伺いまして、小学校だけではなく中学校についても併せて答申をした方がいいだろうということで、この点については皆さんがご一致しているところだと思います。人口動態も、10年先くらいまではわかるのですが、その先はこれから生まれてくる子どもの数にもよりますので、なかなか読めない部分もあります。10年先よりさらに先を考えると、一体型でしばらく進めてその後で将来的に考えていかないといけない時期が来るのではないかと思えます。このようなことが、一つのまとめの方向かなと思えます。

地域の議論の熱が上がりにくいところもあるので、これについては、教育委員会として相当にサポートをしていかないとはいけないかと思えます。何とか、我々が学校という意識を持ってもらうような工夫をしないとはいけないかと思えます。今のところでは、「B-2 案」の方が方向性としてはいいのではないかと思えますが、やはりそのためには増築などで中学生に対応できるような内容で、中学校校舎を使わないということになりますので、予算的には2つの学校を維持するよりは1つの学校で改修だけでなく、十分な余裕を持った増築をすることによって、当面10年以上、一体型の小学校と中学校という形にするというものです。

義務教育学校は1年から9年までの一貫で、学校が一つになりますので、こうなると中学校をどこかに移すというのは難しくなります。また、一体型で、校長先生が別々にいるということになると、一緒にいるというメリットをなかなか生かすにくいところもあります。一体型で一貫教育ができるような形にしておいて、場合によっては、中学校はどこかと統合することもあり得るといふ含みを持って進めてはどうかと思っています。

〇〇委員が戻って来られましたので、今まとめに入っていたのですが、もう一度申し上げます。

委員の皆さんのご意見ですが、やはり多少の温度差がございます。中学校についての返事をしないで、中学校はまた後でというのは、校区審議会として不十分ではないかということで、中学校も含めてとなると小学校の校舎に中学校も一緒にして、中学生に対応していくために増築をしていただくということです。また、小学校と中学校が一緒にあるだけではなかなか成果が上がらないので、一貫教育をしていくということです。ただ、義務教育学校にすると、これから先に生徒数がかなり少なくなってきた時に、どこかと統合するというのが難しくなってきますので、校区審議会の提案としては、当面は小学校と中学校が一緒になり、一貫教育もできる学校ということではどうかと思っているところです。さらに、地域の議論の熱を上げるためには、本当はもう一度アンケートをしてもらうなど、そういうことも必要かと思うのですが、なかなか進みにくい状況もありますので、こちらから方向を出して、あとは2年くらいかけてもっと中身を詰めていただきたいと考えています。神戸小学校については、美和小学校との連携をどんどん進めていただいて、今年も来年も1年生は1人ということで、孤独にならないように、過渡期のケアも必要だと思います。そのようなケアを通じて、神戸小の統合が1年ずれたとしても、何とかご理解いただけるのではないかという感じを持っています。

このような方向ではいかがでしょうか。ただ、この「B-2 案」の文面は手を入れて、もっとシンプルにする必要があると思えます。〇〇委員からご意見いただいた内容も踏まえて、手直しをしないとはいけないと思えます。何もかもこちらでやるというわけにもいきませんので、そこら辺をどうしていくかと思っています。

委員

確認なのですが、「B-2 案」とした場合のタイムスケジュールとしては、小中一貫校を同時にしていくという目標で行くと、統合が早くて3年後という目標になってくるということですね。私が思って

いたのでは、小学校の統合だけであると早くて平成 31 年度にできるというふうに考えていたのですが、この小中一貫校を打ち出すということは、小学校だけを最初に統合して、その後に小中一貫校を目指すという 2 段階というやり方もありますし、小学校と中学校を一斉に統合ということになると、かなり後になるのではないかと思います。

委員

「B-2 案」は、2 段階という意味ではないかと思います。

会長

私がイメージしているのは、1 段階で実施するということです。平成 32 年度を目指して、一度に、2 つの小学校が統合して中学校をそこに併設して一体化するというものです。

神戸小学校については、平成 30 年度と 31 年度と待っていただくことになるので、そこは少し心配があるのですが、そのためには週 2 回くらい美和小に通っていただくなどして過渡的な手立てをしてはどうかと考えています。

神戸小学校を合併して、また中学校をまた併設してということにして、何度も繰り返すのは、決して子どもたちにとっていいことではないのではないかと思います。一度で済むように、およそ 2 年後をにらんで十分に議論をしていただいと思っています。

建物についても、今から 2 年後に増築が完成するような段取りができないものかと考えています。当然、予算的な措置がないと何ともできないところはあると思いますが、例えば、平成 30 年度は設計をして、平成 31 年度には工事にかかるというようなことができないものかと考えているところです。

事務局

「B-2 案」にある、参考資料 6 ページの (3) の校舎一体型の中学校というのは、会長が言われたように 2 段階ではなく、1 段階であります。福部未来学園の一貫校づくりの時と同じではないかと思っておりますが、その時と違うのは、美和小と神戸小は学校を閉じますので、閉校ということも入ってくると思います。保護者の方もそれを想定して話をしておられました。福部の場合は、平成 26 年 11 月に答申をいただきまして、約 1 年 4 か月で開校しております。ただ、施設については、もう少し時間がかかっておりますが、開校の準備についてはそのくらいの期間でされました。ちなみに、鹿野は答申から約 2 年 4 か月で開校しています。

会長

建物について、今から 2 年後というのは可能なのでしょうか。

事務局

今ある既設の建物の改修のみでしたら対応可能であると考えております。しかし、〇〇委員がおっしゃられたように、学校サイドの意見を聴く中で、必要なものですとか、特別教室のあり方ですとか、増築等が必要であれば、通常ですと最低でも 3 年かかります。

ちなみに、福部未来学園についてですが、4 月から義務教育学校になるのですが、来年度も特別教室の改修工事も並行してやりますので、新しく全てが完了した段階で開校しているというわけではございません。

会長

必ずしも工事等が全て完了して、開校するわけではないということですね。

事務局

どういったものが、設備的に必要になってくるかということを確認した上で、そこで増築が必要ということになったら、先ほど説明させていただいたように、予算を取って、設計、工事という流

れになりますと、それだけの期間が必要になります。ただ、既設のものを使ってできるところだけ先行してやるとか、そういった方法もあるのではないかと思います。したがって、全ての完成形ということで行くと、3、4年のある程度の期間は見えていかないといけないと思います。

会長

そうすると、既設のものをまずは中学生に合うように手直しをしていただいて、増築するとなると3年くらいは見ていく必要があるということですね。もし、増築したとしても、江山中学校の校舎の手当てというのは必要なくなりますので、予算的にはどうでしょうか。

事務局

当然、予算要求するところから始まりますので、そういった説明は現時点でできかねますが、予算要求するにあたっては、学校がどういう方向性になるのかということが大前提になってくるかと思えます。

会長

そうすると、教育内容をもう少し整理しながら、どういう教室がどれくらい必要でこれだけ足りないということを出していかないといけないということですね。

委員

確認ですが、「B-2案」は、もともと小学校の統合と中学校の一体化を1段階で行うということを書かれたものでしょうか。私は、最初にこの案を読んでいて、まず小学校を統合して、その後中学校が加わるというように2段階として読んだのですが、他の皆さんはいかがだったでしょうか。

副会長

私も2段階だと思っていました。

委員

「B-2案」を支持された方は、2段階なので支持されたのか、1段階なので支持されたのか確認された方がいいかもしれません。特に、(3)の文言がそのように読めてしまうのです。

会長

ここの部分ですが、1段階で済ませべきであるということで、もともと書きました。それはなぜかということ、膨大な準備や会議が2年も3年も続くというのはやめた方がいいと思います。やはり1段階で進むような形で、進めた方がいいと思います。現職の先生も大変な仕事をさせていただきますので、それが何年も続くというのは決していいことではないと思うところです。やはり、新しい学校を一気につくって、同時に始まるということがよいと思います。例えば、開校式を何回もやる、閉校式を何回もやるということを毎年繰り返すのが決していいことではないと思います。神戸の子どもたちには1年待っていただくのですが、美和小の校舎に移ってもらうのがいいのではないかと考えています。

副会長

要するに、小中一貫ということですか。一体型ということですか。

会長

一体型で一貫ということですか。

副会長

そうしますと、完全に小中一貫ということですね。

会長

それをしないと、小学生と中学生が一緒にいる理由が恐らくないだろうと思います。やはり教育の中身を一貫型にしていくということです。ただ、将来的に中学校だけ、他と統合せざるを得ない時期が来る可能性もあります。

委員

確認ですが、校歌は一つになるのですね。湖南学園は小学校も中学校も校歌が同じですね。

委員

湖南学園は同じですが、それは小中一貫校だからです。江山の場合は、一体型だけであり、小中一貫ではないと思っています。

校舎が一つで、小学校も中学校も別々の教員集団という学校というのもあるのでしょうか。

事務局

全て調査をしたわけではございませんが、以前は小さい自治体の学校では幼稚園も含めて同居している形というものもあったと思いますが、現在は小中一貫教育ということで全国的な流れで来ていますので、ただ一緒にいるだけではもったいないと言いますか、一貫教育で特別な教育課程を編成して新設教科ですとか教科内容の移行ですとか、兼務をして小中で教職員が指導し合う湖南学園の形をとった方が、特色ある教育を行えるということで、されているところが多いと思います。

会長

義務教育学校と一貫教育の線をどこで引くかということなのですが、限りなく近いと思います。それであれば、義務教育学校にしまえばいいのではないかというお考えも出てくるとは思いますが、その場合、将来的なことを考えると、中学校だけどこかと統合せざるを得ない時期が来た時に少し難しいのではないかと考えています。

委員

先ほど校歌の話も出ていますが、それは最初の段階で同じであっても別々であってもいいと思います。考え方としては、一体型として効果が上がる形で教育を進めて、ただ将来的な見地で考えたときに、小学校と中学校が別々であった方が、中学校が統合せざるを得ないことになったときに動かしやすいのではないかということで私の意見を言わせていただいたところです。

会長

私もそう考えています。教育内容は、ある程度お互いにサポートし合いながらすることが、一体型のメリットだと思います。湖南学園は、この4月からさらに発展して、義務教育学校という一つの学校になるわけですが、今ある湖南学園のような形として考えたいと思います。

委員

一貫校と義務教育学校の正確な線引きはわからないのですが、私のイメージでは小中一貫校でも義務教育学校でも一度組んでしまえば、おそらく学年制も変わってくるので、そうすると将来的にどこか他の所とくっつくことはないだろうという認識もあり、私が小中一貫校はまだ早いのではないかと言ったのはそういうことでした。一貫校でスタートしても、おそらく何年かしたら、義務教育学校にしましようということになり、もし将来的に小さくなくても分離してどこかとくっつくという選択肢

はないだろうという思いがありました。他の皆さんは、施設としては同じ場所にいるけれど、小学校と中学校は別々で、いずれもくっついたり離れたりできるというイメージでおられたかもしれませんが、私は一貫校も義務教育学校もほぼ同じであると考えますので、一貫校だとカリキュラムが変えられますが、今まで5年生が中学部に上がっていたものをまた小学校に戻して、3年間だけ中学校になるというのは無理だろうなと思っています。

委員

会長は開校を何回もというのは大変だというふうにおっしゃられましたが、そう考えると義務教育学校だと思います。今年の4月に、湖南と福部と鹿野が義務教育学校になるわけですが、校長が二人いるということではなくなってきました。校長が一人になります。2年後か3年後にそのグループに入れてしまえばいいと思います。今更、河原や高草ということにならないと思います。小学校でも中学校でもなくなるわけです。

会長

今まで河原中や南中なども検討してきましたが、なかなか簡単にはいかないと思います。

委員

それは無理だと思うので、義務教育学校という枠で、部活動の大会への参加の形態も変わってくると思います。地域で部活を回そうという流れが出てきています。おそらく学校から部活動そのものなくなってくると思います。教員の仕事ではなくなってくると思います。

会長

地域で支えていかないといけなくなると思います。

そうしますと、私の書き方は少し曖昧でしたが、「B-2案」というのは、義務教育学校という形になるのでしょうか。

委員

ニュアンス的には、そうした方が2段階にならないかと思います。

委員

一貫校というのは、6年生と3年生という学年割で、義務教育学校でしたら学校によって自由に学年割ができるという、そういうことではないのでしょうか。

委員

一貫校でも湖南学園は、4・3・2年制を行っています。福部未来学園は、校長が2人いる形でスタートしましたが、この4月から校長が一人になるわけです。そのような2段階ではなく、すんなり1段階で進めるというのが、今の流れに沿っていると思います。

委員

湖南学園ができた当時は、義務教育学校という制度はなかったです。実際に全国的に義務教育学校ができたのは、平成28年の4月からです。小中一貫校の上に行くのが義務教育学校ですので、ここが完全なゴールイメージだと思います。校長が1人なのか2人なのかでは、全然とは言いませんが、1人の方が9年間の方針を一貫して伝えられます。湖南学園の頃には、そのような制度がなかったので、今、目指すのは小中一貫校より義務教育学校になると思います。その方が、こんな学校にしたい、こんな特色ある学校だということが9年間、縦系列で下ろすことができます。

委員

地域から上がってきた文書に小中一貫校とはありますが義務教育学校ということは全く出てきておらず、そういった知識がないと思うので、そのあたりは説明しないといけないと思います。

副会長

それはとても大きな話です。私の中には、校長が1人なのか2人なのかという認識しかないので、今後そうなるという話であれば、がらっと考え方を変えなければいけないと思います。4月から小中一貫校が義務教育学校になるわけですので、小中一貫にするのであれば、義務教育学校にしていかなければならないと思います。通常の小学校と中学校というのが一緒になった場合、小中一貫校というのはなくなって義務教育学校と呼ぶということですね。今後、小中一貫校をつくるということはなくなるということですね。そういった形態の学校は、全て義務教育学校ということでしょうか。

事務局

以前に、小中一貫校と呼ばれていたものは、現在は義務教育学校と、小中一貫型小学校と小中一貫型中学校という2つの類型に分かれます。鳥取市にあります、小中一貫校と呼ばれていた3校は、全て義務教育学校という形を平成30年からとります。ただし、全ての小中一貫校を義務教育学校にしていくというわけではなく、教育委員会としては、その地域や学校の状況に合わせて、義務教育学校にするのか、小中一貫型の小学校と小中一貫型の中学校とするのかは、判断をしていった方がいいという方針を持っています。

湖南や福部のような1小1中ではない小中一貫校というものもございます。例えば、1つの中学校に2つの小学校がある場合は、義務教育学校としてしまうのではなく、中学校と小学校を残して併設型の一貫校をつくるということも、選択肢としてはありますので、その地域に応じて判断していこうというのが教育委員会の考えです。

会長

私が1段階でと言っておりますのは、小学校同士の統合と、中学校を併設するのを同時にしてはどうかということでした。それを32年度に目指してはどうかということでした。小学校同士を統合して、それから何年かして中学校を併設するというのは、なかなか大変ではないかと思います。そういう意味では、1度でした方がいいのではないかと思います。

先ほどの事務局の説明によると、義務教育学校という形と、小中一貫型小学校・小中一貫型中学校という形も残り得るということですね。

事務局

「B-2案」の(3)の記述は、義務教育学校ではない小中一貫型小学校・小中一貫型中学校であると思います。美和小と神戸小で新たな中学校併設型小学校をつくる、江山中は小学校併設型中学校とするのが「B-2案」だと思います。それを1度でつくるのが、この「B-2案」ではないかということで私は読み取りました。

もし、義務教育学校ということになると、前回議論いただいたA案になると思います。ただし、A案には施設を一体型にするという文言は説明の部分にしか出てこなかったと思います。

会長が、「B-2案」とされたのは、義務教育学校にすると、生徒数のさらなる減少により、将来的に中学校だけを分けて他の中学校と統合することは難しいだろうということで、A案ではなく「B-2案」とされたのではないかと思います。

会長

そのようにしたのですが、実際には一貫教育をすることになると、中学校の先生が小学校を教えるようになるのでなかなか分かりにくい部分もあるのですが、制度的には分けることができるわけですね。

事務局

まだ2年しか経過していないので、義務教育学校ができてすぐに分けたということは全国にはないと思います。皆様にもお伺いしたいのですが、江山校区において義務教育学校にしてしまうと、小学校と中学校に分けにくいということであれば、20年後に今ある義務教育学校も分けにくいということにもつながるのではないかと思います。

委員

江山の義務教育学校の規模が小さくなった時に、他と統合することはもうないという話ですね。

事務局

逆に言えば、義務教育学校が他の義務教育学校に移るということになるかもしれません。

委員

例えば湖南が小規模になったときに、中学校部分だけ統合できますかということですね。

委員

義務教育学校だったら、将来的に規模が小さくなって他と統合となった場合に、統合の話が成立しにくいということですね。

事務局

そういうことにもつながっていくのではないかと思いますし、そうなるとなかなか全市的な構想はしにくいのではないかと思います。しかし、義務教育学校であっても全市的な構想でやっていかなければいけないのではないかと考えておりました。

会長

義務教育学校であったとしても、どんどん小さくなって中学生としての十分な教育が受けにくくなれば、小学校と中学校に解体するしかないのではないのでしょうか。解体をして、どこかの中学校と一緒にするなどしないといけなくなるのではないかと思います。

事務局

そういうことであれば、義務教育学校にすると小学校と中学校に分けにくいというのは当たらないのではないかと思います。

委員

義務教育学校は9年間の学校ですので、9年間の学校に中学校だけをくっつけるというのは難しいので、小学校と中学校にもう一度解体して新たに中学校の統合をするという方向で進めることが前提となり、なかなか統合をしにくくなるなどというイメージがあり、全市的な校区再編をというのにはそういう意味もありました。

会長

小学校は小学校で維持できるのであれば、小学校を残して、中学校だけをくっつけるしかなくなるのかなと思っています。

委員

義務教育学校は9年間ですので、小学校と中学校に解体するというイメージですね。

委員

まだ義務教育学校の制度が始まったばかりですので、そのあたりはまだ十分にわからない部分があります。中学校部分の機能が果たせなくなるときが将来に来た時に、部活動が教員の仕事でなくなって地域で運営していこうかという案が出てきているわけですね。そういう動きがこれからどんどん加速していきますので、あまり心配ではないかもしれません。

委員

そういうことであれば、平成32年度から義務教育学校とするということですか。

委員

義務教育学校にしても、4月から始まる3校を含めて義務教育学校の議論が加速していくというのはあると思います。がんじがらめで10年後も20年後も何もできなくなるというはずはないと思います。残された学校にしても、全部の学校がそういう課題があるわけです。

副会長

江山校区の学校のあり方を考える会からの要望内容である、「神戸小、美和小、江山中の3校による小中一貫校の設立をお願いします」という、そのとおりにするわけですか。

会長

「B-2案」というのは、そういう形になります。

副会長

要望がそのまま通りましたという形になるわけですか。

会長

結果的にはそういう形になるかと思えます。その他に、場所についての議論がなされていなかったのですが、一体型にするということが今回の議論で出てきたかと思えます。結果的にそうなるのですが、一番心配なのは、地域の熱意が本当にそれでいいのかという部分を心配しています。地域のアンケートについても、小中一貫校が62%という結果が出ていましたが、中学校区全体というわけでもないので、アンケートの取り方も含めて少し心配なところもあります。

もう一つは、地域の要望は要望として、教育委員会として、校区審議会として、地域の要望を受け止めながら、こういうふうにした方がいいのではないかというのを出していてもいいのではないかと思えます。それを出さないと、地域の意見に対応しているだけでは、なかなか結論は出ないかと思えます。地域はそういう要望をされても、校区審議会はこうしますという、違った形になってもいいとは思いますが、「B-1案」ですと中学校をどうするかという回答を我々が出せないということになります。中学校については、高草や南との合併も考えたのですが、実際には江山中学校を閉校するということになりますので、それは避けた方がいいのではないかと私は思います。そういう意味では、現在のまま残すか、一体型にして一貫教育をしていくかということになると思います。最終的に小中一貫ということでもとまったとしても、地域で熱を上げていただかないと、学校を持ちこたえさせるのは難しいと思います。部活動だけでなく、授業の内容でもサポートしていただかないと難しいと思います。相当な応援をいただかないと、小中一貫校や義務教育学校というのは、魅力的な形では進まないのではないかと思えます。そこのところの、地域の応援をどのようにして得るのか、それをずっと待っていていいのかという部分があり、むしろ早く決めて地域を育てていくということも教育委員

会としてあるのではないかと思います。

副会長

会長がおっしゃられるように江山中校区がどこかと一緒になることがあり得ないのであれば、それしかないと思います。

会長

中学校に課題があるというのは、我々の方から言っておるわけです。校区審議会から、学校が小さくなりすぎていませんかということを問いかけています。それに対しての答えが、要望書として返ってきているわけです。これまでの審議ですと、小学校の統合は早急に進めるべきである、中学校はもう少し審議するので待ってくださいということでした。その審議の内容ですが、残すか残さないかということも含めて返すべきではないかと思っております。中学校は待ちなさいと言って、結論をいつ出すのか、2年先、3年先ということでもいいのかという心配があります。これは平成25年の前々期の校区審議会から指摘をしているわけです。そうした中、ようやく地域から上がってきた段階なので、結論を出していった方がいいと思います。

ただ、地域からの何回かの回答の内容が弱いので、そこでいきなり義務教育学校という形で返すのが本当にいいのだろうかという部分がありますので、少し引いた形で、小中一貫ということにしました。

もし、「B-1案」で返した場合に、こちらから問いかけをしておきながら返事をしていないという内容になっているので、中学校をそのまま残すということになると、中学校の改修工事に入る時期が来るということになります。河原や高草にくっつけるとなると、大変な作業になるかと思えます。いずれ、どこかの段階で、生徒数が思うようにいかない場合に、もう一度どこかと統合するのが自然の成り行きで出てくる時期が来るのではないかと考えています。当面は70名前後で推移しますので、これを生かした形で、一貫教育で進めた方がいいのではないかと考えています。そういう過渡期ではないでしょうか。

義務教育学校まで踏み込むのは今までの審議の中では難しいのではないかとありますが、小中一貫型ということではいかがでしょうか。もう一度地域にお返しするというのも、あり得るかもしれませんが、いかがでしょうか。相当具体的にアンケートの取り方までアドバイスしないとなかなか地域は動かないかなという気がしています。神戸は切羽詰っていて非常に熱心なのですが、美和地区の方はどんと構えている様子で、なかなか動かないのではないかなと少し心配しています。

委員

今後のスケジュールをどうするかということ、方向性を決めないとこのままでは終われないと思いますので、この「B-2案」を元にして、今後どのように詰めていくかという方向性を、決めるのが最後になるのかなと思います。

会長

「B-2案」で小学校と中学校を一体型にするということと、その中で一貫教育を進めるということと、増築を含めて美和小学校の校舎に中学校を移すということで、もう一度「B-2案」をまとめ直していきたいと思えます。それについては、また書面にまとめていただくのと、もう一度それに基づいて4月に会議を開いた方がいいのではないかとありますが、いかがでしょうか。あるいは、今回まとめたものを、委員の皆さんに見ていただいて、加筆修正いただき答申するという方法もあります。

委員

方向性として、小中一貫というのは決まりましたので、義務教育学校にするかどうかということとは地域の方で議論してもらおうというのもいいのではないのでしょうか。

会長

それはあると思います。

委員

前回、地域の代表の方が来られていた時に、方向性が決まったらしっかり議論をしますと言っておられたわけですので、義務教育学校がいいのか、校長先生2人の方がいいのかどうかというのは、そこから考えてもいいのではないのでしょうか。

会長

そうすると増築もしながら一体型で教育内容も一貫ということですが、小学校と中学校はそれぞれ設置する、義務教育学校まで上がっていくように一貫型としていくということにして、地域の意見をもう少し聞きたいと思います。

委員

地域は、小学校と中学校という形でもいいと言うかもしれませんが、義務教育学校がいいと思われるかもしれません。

委員

地域は義務教育学校にするという意識はいかがですか。

事務局

私が伺ったところでは、義務教育学校かどうかということよりも、施設一体型の一貫校であった方がいいというお気持ちを持っておられたかと思います。

副会長

義務教育学校か小中一貫校のどちらがいいのか、地域の方についてはそういったことはわかりにくいと思います。校長が1人なのか2人なのかという違いぐらいしかわからないと思います。地域の方がどのように協議して、何がわかるということになるのでしょうか。

会長

そうしましたら、「B-2案」をもう少し簡潔に整理してみます。それから委員の皆さんのご意見を伺っていききたいと思います。最終的には、答申は教育委員会に上がっていきますので、そこでもう一つ判断があると思います。一体型で小中一貫の学校をつくるということで、十分な準備、増築をしていただきたいというようなことを、もう一度まとめ直して委員の皆さんに見ていただきたいと思います。地域とのやり取りはなかなか難しいと感じているところです。ただ、延びても地域にそれをしてもらうか、アンケートを取ってもらうということもあるかと思います。

委員

神戸は喫緊ではありますが、1回でこれをしようとしているわけですから、あまり急ぐことは避けたいと思います。ましてや、義務教育学校というものが周知されないままに、そういった制度があったのか、なぜ教えてくれなかったのかということがないようにしないといけないと思います。なかなかそれを説明したところで多くの方が、義務教育学校と小中一貫校の違いが理解して議論することはなかなか難しい面はあると思いますが、そのようなことを周知して、選択できる知識や情報を多くの方に伝えていきながら進めることで、おらが学校ということになると思うので、神戸のことは気になりますが、急いで結論を出すことは危ないかなと思います。

会長

〇〇委員からお話がありましたが、やはり地域で応援をしてくれる体制がないとなかなか一貫教育、義務教育学校というのは難しいと思います。と言いますのは、地域で負担していただく様々なことがございます。ここを抜きにして、新しい学校の運営はスムーズにできないし、成果も上がらないと思います。色々な研究報告を読む中で、義務教育学校あるいは小中一貫校として成果が上がっているのは全体の7割程度のようなようです。一番うまくいっているケースは、教育目標という部分をきちんと検討して地域も共有しているようです。地域も学校も教育委員会もそれを共有して進めておられる学校が、やはり成果が上がっているようです。これから義務教育学校が本格的にできてきますので、むしろその部分をわからないまま進めるよりも、地域と十分に詰めた形で、義務教育学校や小中一貫校を進めていく方がいいのではないかと思います。そういう意味では、今回すぐに答申というのは難しいと思いますので、地域との協議をもう少し具体的に進めながら、地域の熱意が盛り上がってくる、伝わってくるような仕組みを考えながら答申できるような形にした方がいいのではないかと思います。もう少し地域とやり取りをして、「B-2案」をもとに、場合によっては義務教育学校も含めて、様々な検討をしていきたいと思います。直接、私が考える会と話をしてもいいですし、江山の中でも色々な話をさせていただきながら、もう数か月かけて結論を出してはどうかと思いますが、いかがでしょうか。委員の間でも、全て一致しているわけではありませんし、上の方から義務教育学校あるいは一貫校でいまいしょうということにならないように、地域が何を望むのかも含めてもう少し地域とやり取りをしたいと思います。

委員

やはり答申の中で、地域で十分に議論が尽くされていないというのは、あってはならないとは思いますが、これは、ウェブなどでも見ることができるものになりますので、これは鳥取市の恥になってしまうと思うので、このような展開はやはりよくないと思います。

会長

わかりました。今回までに様々な資料を用意いたしました。毎回、次々とこれも足りない、あれも足りないということで、次々と我々の中でも検討が足りない部分がありましたので、地域はなおさらだと思えます。もう少し、新しい学校をつくるわけですから、こういった校舎改築の予定も見ながら進めていきたいと思えます。今日、ご検討いたしましたことについては、またまとめて大事な部分を重点的に検討しながら進めていきたいと思えます。もう少し、地域とやり取りを進めます。その結果をまた審議会でご検討いただくようにしたいと思えます。その方が、その後のことを考えると一番いいのではないかと思います。次回以降、また千代川以西エリアのこともありますし、議題は尽きませんが、今までは右肩上がり人口が増えて新しいものをつくる、増設するというのでよかったですがお金もない人口も減っていくという今までに経験したことのない、小さくなりながらも魅力を出すというまちづくり、学校づくりをしないといけないので、なかなか大変な作業ですが、ぜひともこれからも様々なご意見をいただきながら、多少時間は遅れても皆さんが納得できるような方向に進めたいと思えます。次回は新年度になると思えますが、任期が6月の終わりまでですので、そこまでにできれば答申できればと思えますが、地域ともう少し密な話し合いをして、地域でも応援していただけるような体制にしていきたいと思えます。一応、今日のまとめとさせていただきます。皆様の方で、何かございますでしょうか。

委員

もう一度確認なのですが、方向性としては、教育委員会に、小中一貫校を一体型でやっていこうと思えますが、義務教育学校がいいのでしょうかどうでしょうかということ地域の方に聴きに行ってくださいということでしょうか。どういう議論をするように地域の方々に言っていただくのでしょうか。

会長

「B-2 案」をもう少しまとめていくこととなりますが、一体型の一貫校で進めたいのですがということと、義務教育学校と一貫教育といった説明もきちっとしていかないといけないと思っています。

委員

私たちは、例えば鹿野地域においては小中一貫校の方向性が出てから、義務教育学校や表鷲科や5・4制などのいろんな議論があつて開校を迎えたのをずっと見させていただいたのですが、今回、そういったことを答申を出す前にしていただくのかどうかということを知りたいわけです。そうすると、私たちは義務教育学校がいいのかどうかを、地域で話し合ってもらっては相当先になるのではないかと思います。そうすると、この期では答申が出せないのではないかと思います。

事務局

鹿野のことをお話させていただきますと、鹿野の小中一貫校推進委員会を立ち上げたときには、鳥取市として義務教育学校を設置するかどうかということは方針として決定しておりませんでした。国では、制度としてスタートしていましたが、鹿野では小中一貫校でどのような学校をつくるかといった教育の目標については、教育課程を検討していく中で議論されておりましたので、義務教育学校がいいかどうかという議論は最初の段階ではなされていませんでした。推進委員会を進めていく中で、鳥取市として、小中一貫校より義務教育学校を目指した方がいいだろうということで、湖南と福部と方針を決めましたので、地域や学校を含めて説明してそのような方向になりました。あくまでも、義務教育学校を設置するかどうかという方針は教育委員会が決めていくということで、ただし、鹿野の推進委員会の中でもそういう方針を出したときに、ブロック制とか色々なことを考えていただいておりますので、検討はしていただきました。鹿野としても、施設分離型の5・4制の中で、義務教育学校が望ましいと思うという地域の意見は、検討されましたので、教育委員会にも中間報告という形で、鹿野としては検討しているのだけど義務教育学校を望みたいという報告を受けて、教育委員会で方針を出しました。地域や学校で教育ビジョンなど色々なことを考えた上で、義務教育学校はどうかということを進めていった経緯がございます。

したがって、〇〇委員さんがおっしゃられるように、これから任期の6月まで方針が決まってない中で、なかなかそのあたりを地域の方に決めていただくというのは、難しいのではないかと思います。

会長

そうすると、答申を出すまでに、相当な時間がかかるということになりますか。

事務局

義務教育学校であっても、小中一貫型小学校・小中一貫型中学校でも、小中一貫教育を行うということでは、大きな差はないと思います。また、市教委は、1小1中であればより義務教育学校が望ましいという方針です。したがって、施設一体型の小中一貫教育校にするのか、そうでないのかというところが大きな学校の方向性だと思います。こちらで決めていただいて、その方向性が出れば、後々地域の検討組織でそのあたりを考えていただくということで良いのではないかと思います。

会長

「B-2 案」をもとにしながら、義務教育学校に近い形かもしれませんし、一体型にするかもしれませんし、問題はどのような学校をつくるのかという中身だと思います。どういう授業が必要なのか、どういうところで地域の方に応援していただくのか、そういったことを詰めていきながら、やはり新しい学校のイメージを、今のところ一体型で一貫教育とするにしても中身をどうしますかというところをまとめていただくのが一番大事ではないかと思います。問題は中身だと思います。そのところが地域で共有されないと、応援団もできませんし、どういう形がいいのかやり取りをしながら、地域の多くの方が納得するような教育目標を持った学校で、こんな学校にしたいというところがまとまってく

るといいなと思います。それがどれくらい時間がかかるのか予測がつきませんが、なるべく早い形で問いかけをしながら進めていきたいと思っています。

委員

そうすると、答申は今期では出さないということになりますでしょうか。例えば、「B-2案」を簡潔にまとめて、校区審議会として答申を出すということではいけないのでしょうか。そこから先の話は、鹿野地域と同じように地域と学校と教育委員会で詰めていただいて、教育目標を決めていったり、校章を決めていったりというのを、例えば2年では難しいので平成33年を目途にとかというふうにしてやっていくのではいかがでしょうか。やはり、教育目標もやはり答申に入れていくべきなのではないでしょうか。

会長

答申の中にはそこまでなくてもいいかもしれませんが、地域の中で、ある程度そのような雰囲気を持たないと、新しい学校の運営というのはできないのではないかと思います。今の形で答申をするというのは、地域の十分な議論がなされていない、地域の中で共有されていないまま、答申をするというのは無理があると思います。もう少し、そのところを地域の考える会を中心にして、もう少し一歩踏み込む必要があると思います。実際に、鹿野の要望書を見ますと、非常に具体的で簡潔にまとまっています。そういった形のものが依然として出てきていません。つまり、どちらでもいいというような要望書しか出てきていません。それをもって、こちらが一貫教育がいいだろうという判断も一つはあるのですが、それではなかなかうまくいかないのではないかと思います。答申については、もう一度地域の熱意を探りながら答申をしていった方がいいのではないかと思います。

委員

それを地域に返したときに、地域がどう反応するのかということがあります。地域は、イエスカノ一かを待っておられると思います。

委員

それは違うと思います。ここは結論を出す場ではありません。審議をして答申をするだけです。ここまでの審議を答申するという形で良いと思います。

委員

地域の方は、一貫校にできるのかできないのかということをお待たせされるのではないかと思います。

委員

そういう結論をお待たせされるとしても、そういう結論に至りませんでしたという答申もあると思います。

会長

「B-1案」となるとそうなります。小学校の統合だけで、中学校は待ってくださいという形です。

委員

それをどうやって地域に説明していくかということがあります。今日の校区審議会の議論はどうなったのかと聴かれたときに、決まらなかったと答えるのか、一応一貫校という方向性になったがそれより先は地域に詰めてもらおうという話になったと答えるのか、どのように答えていけばいいのでしょうか。

委員

地域に返すことになったということを説明すればいいと思います。今、会長がおっしゃられたことを返す、そういう答申にすればいいと思います。

委員

うまくいけばいくことを願うのですが、地域の方が校区審議会にお出でになられたときに、これ以上どうしたらいいのだということを言っておられて、また今回も同じ問いかけを返すわけです。

委員

しかし、少し進んでいます。今、一体型の話までは進んできています。あの時とは全然違います。その後の義務教育学校という選択肢も示しながら、煮詰めていただいたら、どちらかになるという見通しは立っていると思います。

委員

そういうことになれば、答申には義務教育学校というのを入れるか入れないかということも含めて検討していくということですか。

委員

そうですね。そういう答申で、進んだという意識は持たれるのではないかと思います。

副会長

そうでしょうか。私は、前回とは全く変わっていないと思います。会長が前々回からおっしゃられるのは、今まで地域が出しているのでは、熱意が弱いということだと思います。そこから新しいものが出てきているわけではありません。

委員

方向はかなり変わってきていませんか。

副会長

それがまだ出てないと会長はおっしゃられましたので、それが出るのを待たなければいけないわけですね。もう少し地域の熱意なり、地域が何がしたいのかという意見が皆さんから出ていますが、まだそれが地域から出ていないわけです。そうすると、こちらの意見も変わっていないはずですが、本日の話で、一貫校の議論が進んでいるような議論になっていますが、いつそのような話になっていったのかなというふうに私は受けました。最後に会長が、また地域に考えていただかないといけないからまた求めるのだという話になって、前々回の審議会の議論と何も変わっていないような印象を受けました。

会長

地域との協議を一回させていただきたいと思っています。結論を「B-2 案」にして答申するということには、〇〇委員の意見にもありましたように、地域の熱意が弱いといえますか、地域で十分に議論されていないといえながら、それ以上のものを返す形になるので、もう少し議論していただくような時間があって、その上でもう少し具体的な教育の望ましい部分をまとめていただいて、それを出していただいて答申ができれば一番いいと思います。先ほど、〇〇委員がおっしゃられたように、地域がもう少し応援ができて理解するという形を取らないと、後々大変ではないかと思います。

委員

用瀬と佐治の資料を読んだときに、7回ほど用瀬サイドで意見交換会や説明会を実施され、事務局から依頼を受けてさらに3地区および保育園・小学校・中学校の保護者を対象に新たに4回意見交換会をしてまとめました。やはり総合的に判断して、佐治との統合がよろしいと思いますということになりましたが、私はそこが事務局サイドのテコ入れだと思います。それがアンケートなのか、保護者や地域の方が多く集まるときに出向くのか、あるいはこういった話し合いや説明会をするので来てくださいと言って集めるのか、そういったテコ入れをしながら、どんなふうな学校というのを少しずつ考えていってもらおうということを仕組んでいかないと、話し合ってください、もっと十分な議論をしてくださいと、ここで我々が机上で言ったことを伝えるだけでは、熱は上がらないと思います。

また、〇〇委員が言われたように、十分な議論がなされていないので、云々と書いてほしくないというのは同じ思いです。私はずっと言うておりますが、校区審議会は地域の意見を吸い上げるのですが、それは十分な議論がなされ、十分な説明をし、まとめ上げた地域の意見、それだったらその意見に沿いますよということを大事にしないとイケないと思います。それをしてこそ、地域の学校に対する思いや熱が継続するのではないかと思います。

会長

6月を目途に私が出かけて行ってもいいですので、義務教育学校というのはこういう学校です、あるいは今のままで中学校をどうするかということで様々な意見がありますが一体型にするということによってこういうことが解消できますということを含めて、今我々が考えていることを説明する部分と、地域で部活動を含めて地域の応援がもっと必要になるというようなことや、湖南学園をつくるときにも相当に準備されてきていますのでそういったこともお話していただきながら、地域で学校を支えていくという意識なりについて、PTAの会などでお話させていただきながら最終的に考える会やあるいは新しい会ができるというのであればそこで上げていただくというのも一つの方法であると思います。

「B-2案」を中心にというところはまとまっていますが、そのまま答申をするには、いくつかの課題があるということであれば、それを解決した形で次回以降に答申がまとまればいいかなと思います。

委員

6月までに審議会も何回か開催して、答申案も揉んでいき、その間に地域にも出かけていくことですね。今のままでは地域の意見を尊重してということまで書いてほしくないという考えですので、その文言は挙げずに、あくまでも地域とは関係なく校区審議会で審議した結果、他とは統合が難しいので、小中一貫校を推奨しますという答申になるのかわかりませんが、4月か5月に再度そういった検討をする審議会を開催してもらえるとということでもよろしいですね。

会長

地域とやり取りをしながら、地域の意識も向上させながら、本当に応援しようという気持ちになってもらえるような仕組みをつくって、答申できればと思っています。これまで、このようなやり方はないのかもしれませんが、やはり、地域の意見が十分に議論されていないがこうしますというのは、地域に対しても失礼な話ですし、地域にももう少し熱を入れていただきたいということもあります。そして我々の責任としてもいい形で答申ができればと考えています。また、学校の形態がどんどん変わってきていて、新しい部分もたくさんありますし、校舎についても事務局にももう少し詰めていただいて、予算は取らないとイケないのですが、最低限これくらい増設が必要だというような、中学校の要望を入れなくても教育委員会としてできるはずですので、それぐらいのものをつくっていただいた方がいいかなと思っています。かなり曖昧な形かもしれませんが、私としてはかなり進んだと思っておりますので、地域の熱意が高まるような方向を含めて答申案を検討していきたいと思っています。そのようなことでよろしく願いいたします。

今回は、江山校区については、地域と少しやり取りをした上で、それをお話しながら結論を出せるようにしたいと思います。

それでは、進行を事務局にお返しします。

事務局

長時間にわたり、ご審議をいただきありがとうございました。方向性も少し進んだということで、会長にまとめていただきました。以上で第14回鳥取市校区審議会を閉会します。ありがとうございました。

平成 年 月 日

会 長 本 名 俊 正

議事録署名委員

署名委員 大 村 匡 由

署名委員 吉 澤 春 樹